島守中

主体的に学び、考え、表現できる生徒の育成

～ＩＣＴとツールの活用を通して～

（３年計画の２年次）

校長　　米田　裕子

１　研究主題について

昨年度は、主題を「主体的に学び、考え、表現できる生徒の育成～思考力・判断力・表現力の育成場面の設定を通して～」とし、研究に取り組んだ。

各教科において、言語活動を多く取り入れ、思考力・判断力・表現力の育成を目指したことで、生徒たちは根拠をもとに考え、判断し、表現することができるようになってきた。また、思考・判断するための手立てを工夫し取り組ませた結果、表現しやすい方法で答えるようになり、主体的に学び、考え、表現しようと粘り強く取り組む姿勢がみられるようになった。

しかしながら、さらなる個に応じた指導の充実のためには、学習過程や成果を的確に把握し、指導の改善につながる評価を工夫することが必要である。また、Chromebook を始めとした ICT や思考ツール等のさまざまなアイテムの効果的な活用も必須である。実践していく中で子どもたちの状況を正しく把握し、どのように変容していったかを探ることで、さらに、主体的に学び、考え、表現できる生徒の育成を目指そうと考えた。

２　研究のねらい

「主体的に学び、考え、表現できる生徒」を育てるためには、目指す資質・能力を明確にし、基礎・基本となる知識・技能をしっかり身につけさせることが必要である。ICT とさまざまなツールを効果的に活用することにより、対話的で深い学びを実現し、確かな学力を身につけさせるとともに、粘り強さと自信をもって主体的に学び、考え、表現できる生徒の育成を目指したい。

３　研究仮説

特別支援教育の視点を取り入れたわかる授業を基盤とし、各教科はもちろん、領域においても積極的に ICT とツールの活用を行う。これにより、身につけた基礎的・基本的な知識・技能を活用し、見方・考え方を働かせて、主体的に学び、考え、表現しようとする生徒の育成につながるものと考える。

４　研究内容

(1) Chromebook をはじめとした ICT 機器を積極的に利用し、効果的な活用方法を探る。

ア　各個人が積極的に研究を行う。

イ　校内研修等を通し、共有化を図る。

(2) 個に応じた指導の充実のため、さまざまなツールを活用しながら、学習過程や成果を的確に把握して指導の改善につながる評価を工夫する。

５　研究の過程

（1）研究仮設に基づく授業研究

月	日	授業内容
7	13	第１回授業研究（３年社会）授業者：岩織　安香 「弥生時代の暮らしと邪馬台国」
9	28	第２回授業研究（全校道徳）授業者：鈴木　久美子 「えんぶりをつなぐ」C(16)郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度
11	16	第３回授業研究（全校道徳）授業者：校長　米田　裕子 「カーテンの向こう」D(22)よりよく生きる喜び
2	8	第４回授業研究（全校道徳）授業者：教頭　鈴木　悟 「CM のあげる君について考えよう」C(10)公徳心

（2）一般研修

月	日	内　容　等
4	2	第１回校内研修 ・校内研についての共通理解
4	27	第２回校内研 ・「わかった！できた！身についた！」が実感できる授業に向けて ・指導案の様式について ・今後の研修計画について
6	9	第３回校内研 ・問題解決的な授業づくりについて 講師：教育指導課副参事兼主任指導主事　日向端　聖　先生
8	3	第４回校内研 ・１学期の振り返り・２学期に向けて　　・ＮＲＴの分析と考察 ・ＨＵＭＡＮ、自尊感情尺度シートの分析と考察 ・アナフィラキシーショック・エピペン・熱中症について
8	18	第５回校内研 ・1人1台端末の活用 講師：総合教育センター　主任指導主事　石井 一二三 先生
9	24	第６回校内研 ・指導案（教育指導課訪問）の書き方について ・ICT の効果的な活用について（参考資料：文科省、参考動画：NITS） ・特別支援教育について（悩み・疑問）
11	30	第７回校内研 ・特別支援について 講師：こども支援センター　指導主事　佐藤 佳子 先生
1	17	第８回校内研 ・ストレスマネジメント 講師：青森県総合学校教育センター 指導主事　工藤　直子　先生　　研究員　下山　翔　先生
2	2	第９回校内研 ・自尊感情尺度シートの分析と考察 ・校内研究のまとめ（成果と来年度に向けた改善策）

６　研究の成果

（1）ICT の積極的な活用がデータの処理や反復練習等を効率化し、生徒の集中力を高めるとともに、深い理解や考察、意欲的な表現活動の一助となって主体的な学びを促した。

（2）思考ツール等を併せて活用することで、つまずきのある生徒も自分の思考を整理でき、主体的な表現が可能になった。

７　研究の課題

（1）Chromebook、思考ツール等の特質の理解とねらいに迫るための効果的な活用方法のさらなる研究。

（2）導入から課題設定までのはたらきかけや振り返りを工夫し、つけたい力が身についているかを検証して、指導の改善を図ること。

（記入者　小笠原由利子）